

2 なぜ、対馬で SDGs が必要なのか？

▷ Point.....◁

- 地球規模の問題の影響等から対馬でも SDGs の関心が高まっている
- 根本的な問題解決には世界共通目標である SDGs に取り組むことが最善策

(1)SDGs とは

新聞やテレビ番組、雑誌などで特集が組まれる等、SDGs が取り上げられることが多くなりました。そうした効果もあって、SDGs という言葉を知っているという割合が高くなっています。SDGs という言葉とともに、17 色のカラフルなマークとピクトグラム(絵文字)を目にする機会も増えています。おしゃれな印象を受けますが、17 色一つひとつが重要で、どれも欠かすことができないものです。



SDGs のロゴ

一番目の赤は「貧困をなくそう」の色。経済や食料が世界で大きく偏ることで貧困や飢餓、違法な児童労働等が生じています。私たちが何気なく着ている安い服や食べているものは、実はそうした貧困を間接的に生じさせながらできているものかもしれません。世界中の誰もが幸せに健康で暮らせることは人間誰しも平等に持つべき権利です。世界全体の持続的な発展のためには、貧困を撲滅し、人としての人権をしっかり守ることが最大の課題です。しかしながら、貧困を撲滅するには同時に私たちの暮らしにも関わりのある様々な課題を解決せねばなりません。17 の色は世界中の誰もが幸福のために取り組むべき目標を示したものです。

SDGs は「Sustainable Development Goals」という英語の頭文字をとった略称です。2015 年 9 月 25 日、国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」(人間、地球及び繁栄のための行動計画)の目標として掲げられました。

SDGs は日本語に訳すると「持続可能な開発目標」という意味です。持続可能という言葉は簡単に言うと、「私たちの世代だけでなく、次の世代も同じように様々なめぐみやサービスを受けられること」です。つまり、SDGs とは世界中のすべての人が 2030 年までに取り組むべき幸福のための努力目標ということになります。カタカナ語ではなく、標語的に「世(S)界の誰(D)もが元(G)気で幸(s)せに」と唱えると SDGs を自然に理解できるかもしれません。



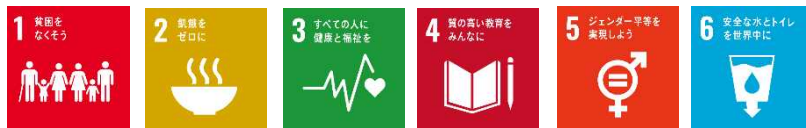
図1 SDGs が生まれた背景と流れ

SDGs は次のように特徴をまとめることができます。

- ・ 大まかに 5つのP で区分され(図2)、全世界共通の 17の目標 と 169のターゲット で構成されます。それぞれの目標がお互いに切り離すことができず(相互不可分)、環境・社会・経済のバランスをとりながら、さまざまな問題の同時解決を目指すことが重要です
- ・ SDGs は目標とターゲットがあるのみでとてもシンプルです。細かいルールや法的な拘束力はなく、罰則もありません。SDGsという羅針盤に沿って、対馬は対馬なりに(「島は島なりに治めよ」)、市民、地域、学校、企業、行政が創意工夫しながら行動することを前提としています
- ・ SDGs は「誰一人取り残さない」ために、全員参加で問題の同時解決を目指すものです
- ・ SDGs の確実な達成のためには、「今できること」ではなく「今やるべきこと」を考えて行動し(「バックキャストिंग」)、目標にどれだけ近づいているか指標を設け、それを定期的に確認・評価することが大事です



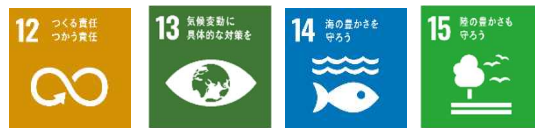
① People(人間) 貧しさを解決し、健康に



② Prosperity(豊かさ) 経済的に豊かで、安心して暮らせる世界に



③ Planet(地球) 自然と共存して、地球の環境を守る



④ Peace(平和) 争いのない平和を知ることから実現



⑤ Partnership(協力関係) みんなが協力し合う



図2 SDGsのもうひとつの捉え方 - 5つのP

国際連合広報センター:SDGsを広めたい・教えたい方のための「虎の巻」より

(2)対馬でも SDGs への関心が高まっている

SDGs という言葉を聞いたことがある人は 52.7%と、社会全体に SDGs が浸透しつつあります。SDGsに関する取り組みをすでに行っている人は12.9%で、取り組む予定の人は12.3%と4人に1人がSDGsを自分事として行動しています。予定はないが取り組みたいという人は35.9%と関心の高さがうかがえます(朝日新聞「SDGs 認知度調査」、2020年)。

対馬はどうでしょうか。対馬市では2021年6月にSDGsに関する市民アンケート調査を実施しました。市民2,000世帯を無作為に抽出し、309世帯から回答を得ました。「SDGsを知っていますか?」という問いに対し、71.2%と多くの方がSDGsを認知し、島内でも関心が高まっていることが分かりました(図3)。SDGsの17の目標別に見ると、目標14、11、15に特に関心が高いことも分かりました。(図4)

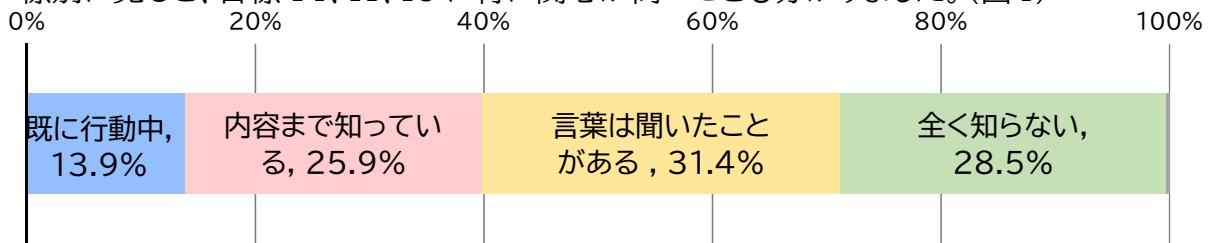


図3 SDGsを知っていますか?

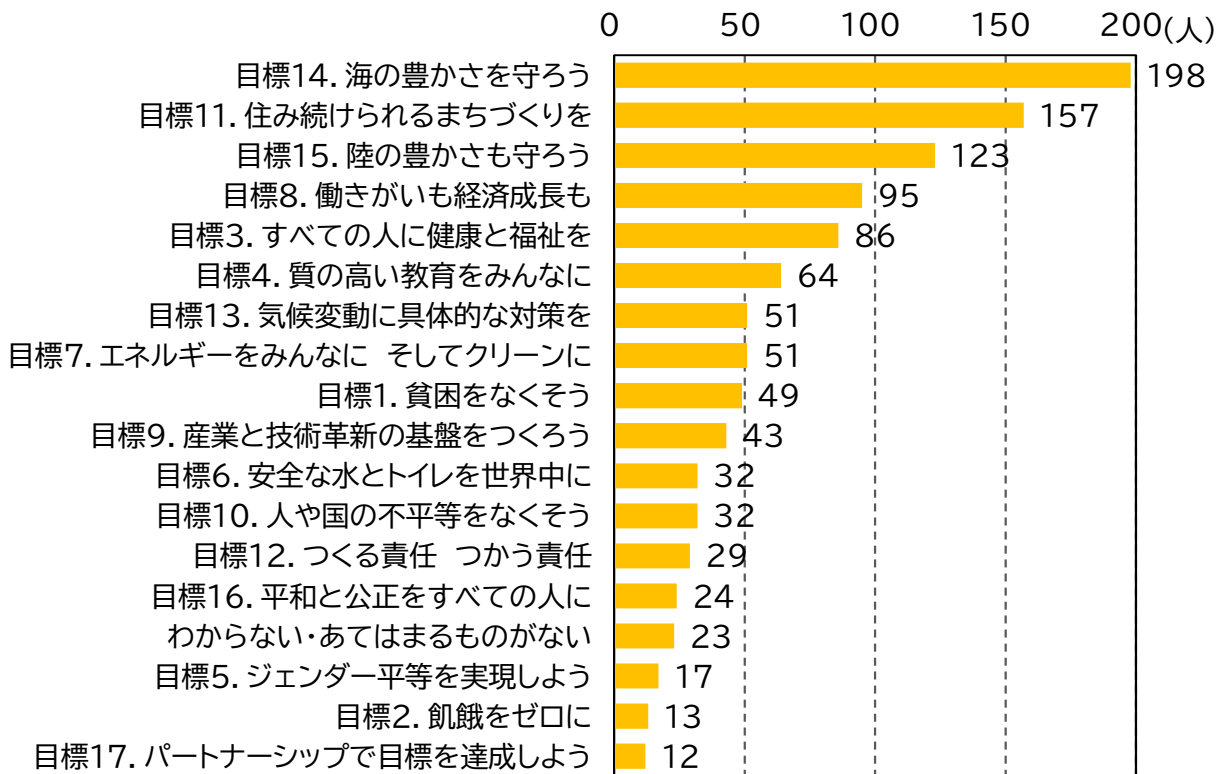


図4 対馬の将来を考えると特に取り組む必要があると思う目標(複数回答)

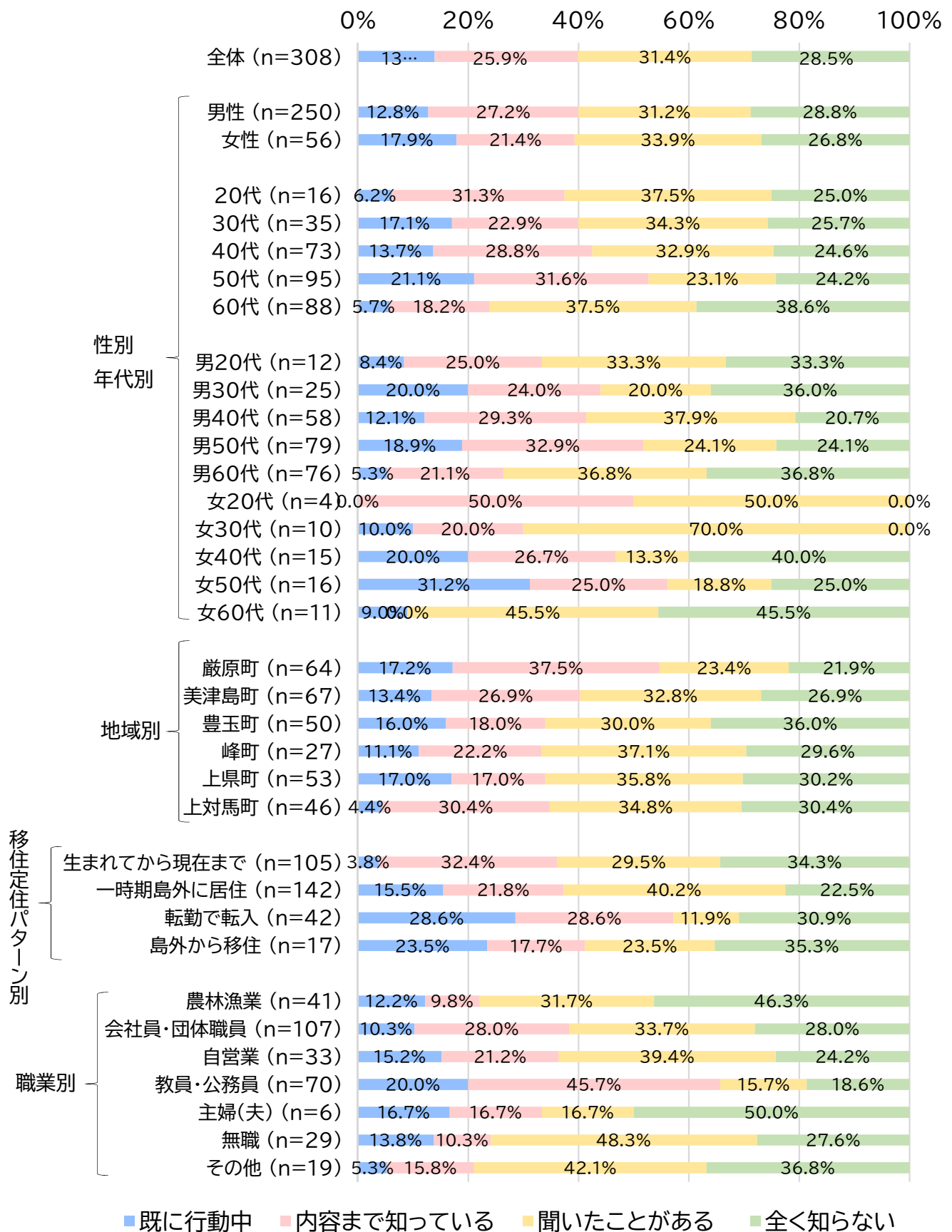


図5 SDGsを知っていますか？(属性別)

(3)対馬に迫る危機

SDGs への関心の高まりの背景には、「このままでは対馬はよくなる」という危機感や、「未来も暮らし続けられるのだろうか」という不安があると考えられます。

「毎年のように潮が上がってきて、困ったものだよ。風でこんな状況だから台風と重なってしまったら恐ろしいことになる」。

海岸部の港や道路は夏から秋の大潮時に浸水し、ひどいところはお店の中にも海水が入ってくるということが実際に対馬で起きています。



なぜ、そうした浸水・冠水が生じるのでしょうか。様々な要因があり、それらが複合して起きていると考えられますが、主な要因として海水面の上昇が挙げられます。

対馬近海では1960年からの60年間で約15cmも海面が上昇しています(図6)。海面上昇の要因は主に「海水の熱膨張」と「氷床や氷河の融解」によって生じ、どちらも地球温暖化によるものです。世界各国の研究グループの予測によれば、南極の氷床が不安定化し崩壊することがあれば2100年までに1.5mを超える海面上昇も起こりうると示されています。

写真1 大潮満潮時に海水で冠水した道路

国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の最新の報告書では地球温暖化は加速化していると警鐘を鳴らしています。山がちな対馬では多くの人が海岸部の平地で暮らし、海岸線に沿って整備された道路や港湾施設を利用しています。私たちの暮らしに今後どのような影響を及ぼすのでしょうか。

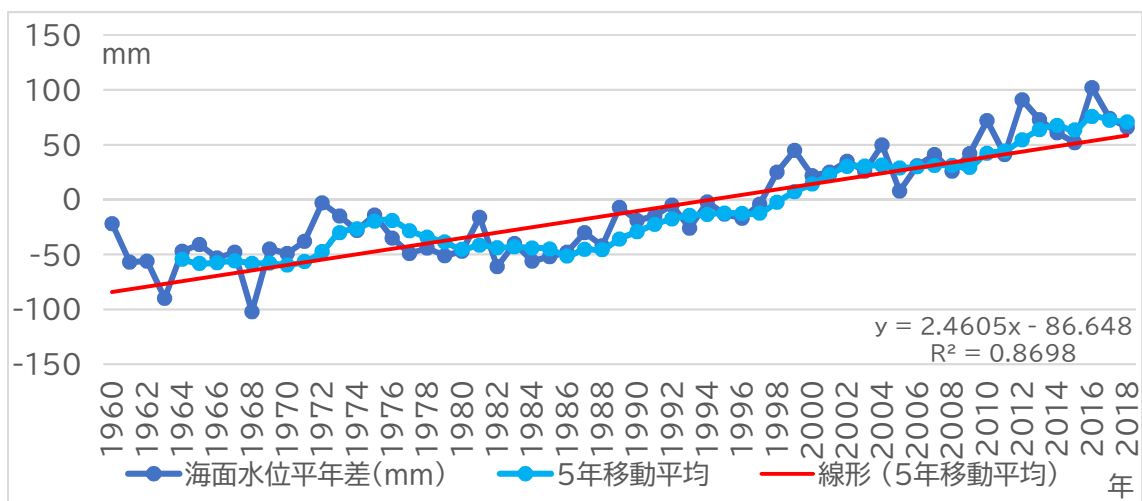


図6 対馬近海の海面水位の変化

データ: 気象庁

地球温暖化は海面上昇だけでなく、異常気象による災害、熱中症や感染症等による健康被害、そして、食料生産にも深刻な影響を及ぼします。

例えば、対馬では近年の豪雨災害や大型台風による災害、渇水による節水制限、熱中症の救急搬送数の増加等が温暖化の影響と考えられます。また、温暖化によって感染症を媒介する蚊の活動期間が長くなり、感染症のリスクが高まります。対馬では日本脳炎が複数発症したこともあり、健康への脅威と言えます。

そして生きる上で欠かせない食料への影響です。地球温暖化によって農林産物の高温障害が生じています。実際に対馬でも米の白濁化、みかんの浮皮、アスパラガスの茎の開き・曲がり、原木しいたけの害菌(オオボタンダケ等ヒポクレア属菌)が確認されています。



写真2 原木しいたけの害菌(ヒポクレア属)

海に目を向けると、海では「磯焼け」が深刻化し、南方系の魚種が増え、海の中は様変わりしています。対馬の食料自給率は約 4 割と低く、今後、このような地球温暖化の影響や少子高齢化等によって食料需給率の低下が予測されます。世界的には、2030 年ごろ、温暖化による食料生産への影響に加え、人口増加によって食料生産が追い付かず、食料危機が生じると危惧されています。



写真3 磯焼けの様子

写真提供:対馬市 SDGs 総合研究所 鎌田衛 市民研究員

ヒト・モノ・カネが地球規模で行き交う現代社会は、対馬を含めどの地域も世界と深く、幅広く結びついています。食料自給率が低く、外からの輸入に依存する日本、そしてその日本において、島外からの移入に依存する国境離島・対馬。食料危機が生じた場合、対馬の私たちの食を守ることはできるのでしょうか。

世界で生じている問題や危機は、決して私たち対馬の暮らしと無縁ではなく、むしろ持続可能なしまづくりを考える上で最大のリスクになりつつあります。

対馬だけでなく、世界中、どの地域も地球温暖化や食料危機、海洋プラスチックごみといった地球規模の問題に直面し、地域だけでの解決が難しくなっています。地域

がバラバラに取り組んでも問題の本質を捉えることができず、根本的な解決にはなりません。自分はよくなっても、周りや遠い地域・国に影響を与え、グローバルな現代社会では何かしら間接的な影響として跳ね返ってきます。したがって、世界中の誰もが同じ目標に向かってみんなで取り組むことが最善の策と言えます。そのための、未来への羅針盤がSDGsです。